

特別支援学校学習指導要領に基づくチーム支援を
目指した指導内容チェックリストの開発：
電子掲示板を利用した指導計画・指導経過・評価等
の共有による、知的障害のある肢体不自由の生徒の
国語・数学の授業実践

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-04-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小島, 洋 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007245

特別支援学校学習指導要領に基づく チーム支援を目指した指導内容チェックリストの開発

—電子掲示板を利用した指導計画・指導経過・評価等の共有による、
知的障害のある肢体不自由の生徒の国語・数学の授業実践—

小 島 洋

1. 問題

平成 21 年 3 月、特別支援学校の学習指導要領が改訂された。その中で、個別の指導計画の作成が各教科等の指導に明確に示された。特別支援学校においては、年々障害が重度重複化しており、特別支援学校（知的障害）の各教科を中心とした教育課程、自立活動を主として指導する教育課程の在籍児童生徒が大半を占める。これらの教育課程においては、特別支援学校（知的障害）の各教科等の内容を理解した上で、それらの指導の必要性を十分に吟味することが大切になる。

また、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」¹⁾においては、個別に指導目標や指導内容を設定しているものの、指導目標が高すぎたり、指導内容が具体性を欠いたりするなどにより、結果として、効果的な指導につながらないこともあることを例示している。

個別の指導計画の作成については、海津、佐藤、涌井（2005）²⁾によると、経験の少ない者に対しては、特に、体系的なプログラムを用意することの重要性を指摘している。さらに、経験にかかわらず、全体的に意識が向きにくい「評価の仕方」や「他者との話し合い」等についての改善が必要であると述べている。具体的には、個別の指導計画に関する研修の中で、これらの内容について重点的に取り上げること、自分自身の特徴（教え方、教材、環境設定等）への振り返りの重要性や実践に対する他者からのフィードバックの有効性が指摘されることから、セルフレビューを目的とするチェックリストを活用すること、個別の指導計画や実践に対してフィードバックをし合い、チームで課題解決できるようなスタディグループを結成すること等を提案している。

また、学校現場を取り巻く状況と校務の情報化に向けた取り組みについては、1 日当たり 15 分の勤務時間の短縮によって、学校に様々な影響を与えることが想定されている。学校本来の機能を維持しながら必要な策を講じなければならず、さらなる業務内容の精選が求められている。そして、平成 22 年度より県内の特別支援学校の教職員に一人一台のパソコンが配備され、ネットワークの整備が開始され、グループウェアシステム（掲示板、文書の電子化等）の導入による効率化の検証が進められている。

筆者が在籍している特別支援学校（肢体不自由）においては、チームティーチングでの指導が多く、ベテラン教員から初任者、小・中学校等の研修交流の先生などバラエティに富んだ集団で指導を行っている。それぞれの経験則に基づいた視点、学校で培われた暗黙知等が影響を及ぼし、話し合いで共通理解を図ろうとしても、「多大な時間がかかる」、「全員が納得することが難しい」等の状況が実際にある。また、教員間の「（児童生徒が）できた」と捉える評価は一様ではない。それぞれの評価は間違っていないと思われるが、環境因子の変化によってできなくなる場合があることを踏まえていないことがあり、混乱をもたらすことがある。実態把握の視点や評価の妥当性の不明確さが、個別の指導計画を実際の指導に活かしきれない要因の一つとして考えられる。

教育現場では、一人一人の教員が目の前にいる児童生徒のために、一生懸命指導を行ってきている。しかし、その頑張りが今一つ、つながっていないことがある。例えば、実際の教材・教具等については、その都度、一人一人に応じたものを作成している。かなりの労力をかけているものの上手く引継ぎがなされていないケース、作成した電子データ等の共有がなされていないケースなどの現状がある。また、多忙である中、効率化を図るために、指導担当者任せになっていることが多々ある。ベテランであれば、それほど負担を感じないものの、初任者や研修交流できた教員にとっては、どのように対応して良いのか、困ってしまうケースがある。特に、特別支援学校（知的障害）の各教科を主とした指導の教育課程や自立活動を主とした教育課程においては、一人一人に応じた指導内容を編成していくので、その拠り所となるものが必要となり、明示することが重要になると思われる。

2. 研究の目的

学習指導要領を拠り所とした日々の指導の展開、互いの見方を尊重した実態把握及び授業実践・評価等に関する取り組み、校務の効率化・省力化を目指した情報の共有化について、追求したいと考えた。具体的には、「特別支援学校学習指導要領に記載されている各教科（知的障害）の指導内容を拠り所にした実態把握、授業実践、評価等のシステム」、「バラエティに富んだ教師集団の一人一人の見方を尊重した実態把握及びそのデータを活用した実践に対するフィードバック、授業実践、評価等のシステム」、「電子掲示板を利用した指導計画・指導経過・評価等による校務の省力化や効率化」などである。根拠のある授業実践、多面的に捉えた実態把握及び学びの履歴の蓄積、教材教具等の共有化を目的として、アクションリサーチをしたいと考えた。

3. 研究の方法

研究の方法として、

- チーム支援を目指した指導内容チェックリストの開発
- チェックリストのデータを活用した授業実践
- 電子掲示板の活用による指導計画・指導経過・評価等の共有

の3つの方法で取り組んだ。実習校は、A市内にあるB特別支援学校（肢体不自由）で、特別支援学校（知的障害）の各教科を中心とした教育課程の学級に所属した。

「チーム支援を目指した指導内容チェックリストの開発」においては、「21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究」³⁾に記述されている『知的障害養護学校の各教科の具体的内容例（試案）』及び特別支援学校学習指導要領解説総則編を基に作成している。また、長崎県立虹の原特別支援学校の指導内容チェックリスト⁴⁾（表1）の構成を参考にした。今回開発したチーム支援を目指した指導内容チェックリストは、実践している教育内容と学習指導要領が示す内容との関連、指導内容の不足や偏り、学習の習得状況などを客観的に把握できると思われる。また、実態把握の項目の観点が学習指導要領に記載されている内容とほぼ同じであるので、ベテランや若手、特別支援教育の未経験者であっても、その観点に沿ってチェックをしていくことができる。さらに、このチェックリストの活用することで、日々の指導はもとより、個別の指導計画の作成にも役立てることが可能ではないかと考えた。

「チェックリストのデータを活用した授業実践」においては、本チェックリストから読み取れるデータを基にし、指導目標や指導内容を検討し、授業実践を行う。さらに、この指導内容チェックリストの各項目をコード化（観点、段階等を明示）

表 1 長崎県立虹の原特別支援学校版
国語の指導内容チェックリスト（抜粋）

国語 No. 1		児童生徒氏名()																
項目	段階番号	内 容	小学部				中学部			高等部								
			1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3				
聞 く	1	1	声や音のする方に振り向いたり、耳を傾けたりする。															
	2	1	教室などで話をする人の方を見て、聞く。															
	3	1	話を終わりでまで静かに聞く。															
	4	1	教師などの説明や友達の話などを聞いて、内容が分かる。															
	1	2	教師の話しかけに表情や身振りに応じる。															
	2	2	友達からの働きかけや呼びかけに応じる。															
	3	2	物語などを聞いて、おおよその内容が分かる。															
	4	2	物語、劇、映画、テレビなどを見たり聞いたりして楽しみ、簡単な感想を話す。															
	5	1	物語、劇、放送などを見たり聞いたりして楽しみ、感想を話す。															
	6	1	物語や小説などを読んだり、テレビや映画などを見たりして楽しみ、感想を話したり、書いたりする。															
	1	3	教師や友達と一緒に、紙芝居やテレビ、漫画を見楽しむ。															
	2	3	簡単な童話、放送、録音などを楽しんで聞く。															
	3	3	教師などの説明、友達の話、簡単な放送、録音などを聞いて、内容のあらましが分かる。															
	4	3	簡単な放送や録音などの内容の要点が分かる。															
	5	2	放送や録音の内容が分かる。															
	6	2	物語などを聞いて、登場人物の気持ちが分かる。															
	4	4	簡単なメモをとったりして、指示や説明を聞く。															
	5	3	必要な場合は、メモをとったりして、指示や説明を正しく聞き取る。															
6	3	指示や説明を聞き取り、適切に行動する。																

することで、その視点での評価や教材・教具の整理についても取り組み、学びの履歴が残せるようにした。

「電子掲示板の活用による指導計画・指導経過・評価等の共有」については、指導担当の教員と口頭による情報交換、学級の教員が日々の指導について話し合う会議に参加をしての情報収集・情報交換だけでなく、空き時間等を有効活用した電子掲示板を通じた情報交換等の手段も取り入れて、実習に臨むようにした。

4. チーム支援を目指した指導内容チェックリストの開発

今回開発したチーム支援のための指導内容チェックリストは、特別支援学校（知的障害）の国語及び算数・数学科の2種類である。特徴としては、「①学習指導要領の指導内容に基づいた観点による実態把握・評価が可能」、「②チーム全員で対象児童生徒の実態を捉えることができる」、「③セルフレビューをするツールとして活用できる」、「④他者との話し合いのためのツールとして活用できる」などが挙げられる。

筆者が所属した学級の担任は4人であり、筆者を加えた5人が実態把握や評価ができるようにした。チェック時においては、他の教師と相談するのではなく、あくまでも自分の判断で行うようにした。相談することで、各教師が捉えていた生徒像にバイアスがかかってしまうためである。

今回開発した指導内容チェックリストは、大まかなまとめりとしてチェックができるように、国語は「聞く・話す」「読む」「書く」の3つの観点で、算数・数学は「数量の基礎、数と計算」「図形・数量関係」「量と測定」「実務」の4つの観点でまとめた（図1）。各チェック項目にそれぞれの観点、段階、番号を付けてコード化（「段階」は、「21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究」の『知的障害養護学校の各教科の具体的内容例（試案）』と同様に6段階で、1～3までが小学部、4が中学部、5及び6が高等部の内容となっている。なお、「番号」については、便宜上、筆

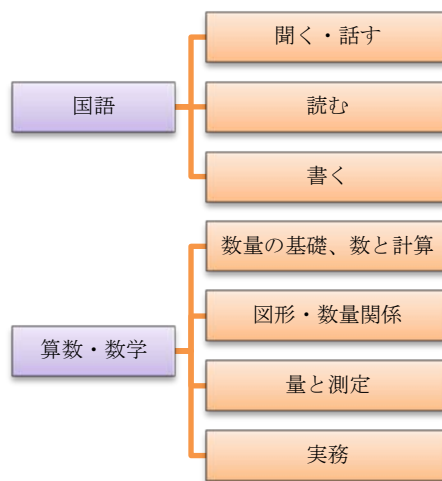


図 1 開発したチェックリストの構成図

者が設定したものである。)をした(表2)。そして、そのコードを授業略案に掲載し、その視点で評価をしたり、学びの履歴を残したり、また、教材・教具の整理をしたりするようにした。

本チェックリストは、表計算ソフトウェアで作成しており、データを瞬時に集計したり、必要に応じてデータを並べ替えて見やすくしたりすることが可能である。

表2 開発した指導内容チェックリスト(国語「聞く・話す」)

国語科		○ ☆ ? ■						
聞く・話す	聞く	1	1	5		声や音のする方に、振り向いたり、耳を傾けたりする。		
聞く・話す	聞く	1	5	5		教師や友達と一緒に紙しばいやテレビ、まんがを見て楽しむ。		
聞く・話す	聞く	2	1	5		教室などで、話をする人の方を見て、聞く。		
聞く・話す	聞く	2	3	4	1	簡単な童話、放送、録音などを楽しんで聞く。		
聞く・話す	聞く	2	7	5		話し合いの時など、相手の話を終わるまで静かに聞く。		
聞く・話す	聞く	3	1	5		話を終わるまで静かに聞く。		
聞く・話す	指示等の理解	1	8	5		立つ、腰かける、集まる、歩くなど簡単な指示が分かる。		
聞く・話す	指示等の理解	1	9	5		「いけない」と言われることが分かる。		
聞く・話す	指示等の理解	2	6	4	1	教師などの簡単な指示や説明を聞いて、できるだけそのとおり行動する。		
聞く・話す	指示等の理解	3	5	3	2	指示を聞きとり、行動する。		
聞く・話す	指示等の理解	4	4		4	1	簡単なメモをとったりして、指示や説明を聞く。	
聞く・話す	指示等の理解	4	5	2	2	1	実習などで、指示や説明などを聞き取って行動する。	
聞く・話す	指示等の理解	5	3		2	3	必要な場合は、メモをとったりして、指示や説明を正しく聞き取る。	
聞く・話す	指示等の理解	5	4	2		3	話の内容の要点を落とさないように聞き取る。	
聞く・話す	指示等の理解	6	3	1	1	3	指示や説明を聞き取り、適切に行動する。	
聞く・話す	指示等の理解	6	4		2	1	2	話し手の意図や気持ちを考えながら、指示や説明などの内容を適切に聞き取る。
聞く・話す	聞いて理解する	1	3	5			自分の名前を呼ばれたら、振り向いたり、返事をしたりする。	
聞く・話す	聞いて理解する	1	4	5			教師の話しかけに表情や身振りで応じる。	
聞く・話す	聞いて理解する	1	7	5			好きな絵本やまんがを読んでもらって楽しむ。	
聞く・話す	聞いて理解する	2	2	5			友達からの動きかけや呼びかけに応じる。	
聞く・話す	聞いて理解する	2	5	5			絵本や簡単な紙しばいやビデオなどを見たり聞いたりして、その内容を楽しむ。	
聞く・話す	聞いて理解する	3	2	3	2		物語などを聞いて、おおよその内容が分かる。	
聞く・話す	聞いて理解する	3	3	3	2		教師などの説明、友達の話、簡単な放送、録音などを聞いて、内容のあらましが分かる。	
聞く・話す	聞いて理解する	4	1	2	2	1	教師などの説明や友達の話などを聞いて、内容が分かる。	
聞く・話す	聞いて理解する	4	2	2	2	1	物語、劇、映画、テレビなどを見たり聞いたりして楽しみ、簡単な感想を話す。	

チェックにおいては、「○」「☆」「?」「■」の4種類のいずれか一つを選択する。「○」は、達成しているもの、できていると思われる場合に選択をする。「☆」は、それが、課題としてふさわしいと思われるもの場合に選択をする。「?」は、課題となる可能性はあるが、現時点では判断がつかない、もしくは確認が必要な場合に選択する。担任であっても、実際にそれぞれの教科の指導に携わっていないケース、関わる機会が少ないケース等がある。そのような場合、イメージや予想でチェックをしてしまう恐れがあり、ありのままの実態を捉えることが難しくなってしまう。このため、あえて「?」のチェックを取り入れた。「■」は、未達成であったり、困難だったりする場合に選択する。厳密な判断基準はあえて設けず、各項目を読んだ時の直観でチェックするようにした。そして、各々のチェックを集計し、各項目についてのチェック者の一致度によって、色を付けて表示させるようにした。

本チェックリストは、指導目標や指導内容を検討するためのツールとして活用を考慮しており、各々の教師が捉えている詳細な実態像を求めるものではなく、短時間のチェックで大まかなイメージをつかむものとしての活用をコンセプトにしている。

5. チェックリストのデータを活用した授業実践

実習で国語の授業を行っている事例生徒C、数学の授業を行っている事例生徒Dに対して、夏休みに本チェックリストを利用して、実態把握を行った。そこで得たデータや各教科等の年間指導計画、個別の指導計画等を基にして、指導が適当と思われる項目について検討を行った。おおよその指導目標・指導内容の絞り込みの際には、各教科担当の教員と打ち合わせを行い、単元を構成して授業実践を行った。実施した授業においては、指導内容チェックリストのコード(観点、段階、番号)及びその内容を略案に記載するようにした。各授業後には、その視点で評価を行い、

記録を残すようにした。併せて、授業で使用した教材・教具等についても、指導内容チェックリストのコード及び内容ごとに、整理をした。

冬休みに、事例生徒 C 及び D の変容を確認するために、冬休みに、再度指導内容チェックリストを実施した。ここでは、授業実践で取り扱った指導内容チェックリストの項目を抜き出して比較するようにした（表 3 及び表 4）。

表 3 実習で扱った内容についての事例生徒 C の変容（国語）

領域	見出し	段階	番号	時期	評価				指導内容
					○	☆	?	■	
聞く・話す	伝える	2	10	夏	4	1			自分の経験したことや見聞きしたことを、教師などに、簡単な言葉で話す。
				冬	5				
聞く・話す	伝える	3	11	夏	1	4			分らないときは、尋ねる。
				冬	1	2	1	1	
聞く・話す	伝える	4	11	夏		4		1	必要なときにはいけない言葉を使ったり、共通語で話したりする。
				冬		3		2	
聞く・話す	電話の扱い	4	12	夏		4		1	自分の家に電話をかけたたりして、電話の応答になれる。
				冬	1	3	1		
読む	図形やマーク等の理解	2	2	夏	4	1			身近な生活の中で、しばしば目にふれる標識、看板、広告などに関心を持つ。
				冬		4		1	
読む	文字の理解	3	4	夏	1	3	1		促音、長音等の含まれた語句や短い文を正しく、読む。
				冬		5			
読む	文字の理解	3	5	夏	1	2	2		片仮名やよく使われる簡単な漢字を読む。
				冬		4	1		
書く	文字を書く	3	1	夏		4	1		進んで文字を書こうとする。
				冬		5			

表 4 実習で扱った内容についての事例生徒 D の変容（数学）

領域	見出し	段階	番号	時期	評価				指導内容
					○	☆	?	■	
数量の基礎	分類	1	4	夏	2	2	1		おもちゃや道具などを分類して整理する。
				冬	4	1			
数量の基礎	分類	1	5	夏	4	1			分割した絵カードを組み合わせる。
				冬	3	2			
数と計算	分類	2	2	夏	1	3	1		身近なものを用途などで分類する。
				冬	1	3		1	
数と計算	数字の読み書き	2	4	夏		3	2		具体的な事物や事柄の順番が分かり、順序数を唱える。
				冬		3		2	
図形・数量関係	記号	1	2	夏	4	1			遊びや日常生活の中で、できたら○、できなかったら×など、○×の記号の意味が分かり、使う。
				冬	4	1			
図形・数量関係	位置の把握	2	2	夏	1	4			上下、前後などが分かり、生活の中で使う。
				冬	2	3			
量と測定	比較	1	1	夏	1	3	1		身近にあるものの数量の多少、大小などを比べ、多い少ない、大きい小さいなどに気付き、差が大きい場合に多い方、大きい方をとる。
				冬	2	3			

6. 電子掲示板を活用した指導計画・指導経過・評価等の共有

今年度より勤務時間が短縮したため、時間を設定して話し合ったり、打ち合わせたりすることは容易ではない。このため、その補助手段となるように、空いている時間を効果的に利用しながら、相互に情報を発信し合えるツールとして、電子掲示板を利用することを考えた。電子掲示板を利用することで、情報交換がタイムリーに、かつ多面的にとらえることができること、関係者が一度に目を通せること、情報を蓄積していくことができるので、変容をとらえることに利用できること、双方向での情報のやり取りができること等のメリットを生かすことで、会議時間の短縮化、教材・教具作成の効率化、児童生徒と向き合う時間の確保等が図られると考えた。それぞれの教員の空いている時間をうまく利用した情報交換ができるようになることで、校務の効率化が図られると考えた。今年度 1 人 1 台の職員用のパソコンが支給されることもあり、電子掲示板を利用した情報の共有化によって、校務の省力化や効率化が図れるかどうか探してみたいと考えた。利用した電子掲示板は静岡大学教職大学院で運用をしているもので、ファイルの添付、コメントの記述等が可能である。情報のセキュリティ等の管理・責任は大学側が負うようにした。運用に当たっては、筆者と B 特別支援学校の教員と情報の共有化を図ることを目的とし、掲示する情報は個人が特定されるものは載せないことをルールにして実施した。

7. 総合考察

「チーム支援を目指した指導内容チェックリストの開発」においては、関係職員に実施したアンケート結果より、「学習指導要領の理解が深まった」「自分の見方だけでなく、多面的に実態を捉えることができた」「学習指導要領に基づいた指導目標や指導内容を設定するのに役立つ」などの項目について、実施した関係職員等においては、概ね効果が期待できると捉えていることがわかった。ある関係職員からは、学習指導要領の知的障害の各教科（今回の場合は国語科及び算数・数学科）の内容を把握すること、その観点で指導をすれば良いことなど、参考になったという声を聞いた。また、他者の見方を知ることはできたが、「できる」「できない」などの根拠を聞く機会や、チェック後の振り返りの時間（根拠を説明し合う機会）があると、さらに良くなるということだった。個別の目標の設定や指導後の評価としても有効で、他の生徒の指導目標を立てる際に、本チェックリストを活用する関係職員もいた。さらに、自分の指導を見直す機会になったという声もあった。

「チェックリストのデータを活用した授業実践」においては、筆者が実施した授業略案の内容、指導目標や指導内容、評価等についての評価は概ね良かった。これは、開発した指導内容チェックリストを活用し、関係職員全員で事例生徒の実態を把握することができたこと、そのデータを基に指導内容を考えていくことができたことによって、関係職員の理解を得られたことが要因の1つとして考えられる。チームの見立てがあったので、それを基に授業を検討することができ、筆者にとっては有益なツールであった。

「電子掲示板の活用による指導計画・指導経過・評価等の共有」では、1人1台のパソコンの支給が11月中旬であり、実質的に運用できた期間は1ヶ月程だった。電子掲示板を活用した情報の共有はあくまでも補助的な手段ではあったが、情報を共有するツールとして活用が期待できることもアンケート結果から読み取ることができた。時間と場所を選ばずに、情報交換ができる機能があるので、今後注目されるツールの1つとして考えられる。電子掲示板の運用に関して関係職員の感想としては、「今回の取り組みでは、遠くに離れた者同士だったので、効果があった。」「家でも閲覧することができた。」等の、いつでも、どこでも情報の共有ができる面について、好意的な意見があった。一方、ある関係職員からは「情報の管理が心配になる」「小規模の学校であれば、直接伝えれば済んでしまうので、あえて掲示板に書かなくても良い。」「掲示板に頼りすぎると、職員間のコミュニケーションが希薄になる。」等の意見が出された。共有する情報の安全管理、職員間の円滑なコミュニケーションが重要になることがわかった。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省（2010）児童生徒の学習評価の在り方について（報告）
- 2) 海津亜希子、佐藤克敏、涌井恵（2005）特殊教育学研究 43（3）個別の指導計画の作成における課題と教師支援の検討：教師を対象とした調査結果から
- 3) 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所（2004）21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましい在り方に関する基礎的研究
- 4) 長崎県立虹の原特別支援学校（2009）平成19・20年度長崎県教育委員会「教育課程」研究指定研究報告書